

未来を拓く生きる力を育む小中一貫教育

栃木市では、義務教育9年間の一貫性のある教育により、未来を担う子どもたちを育むよう、栃木市ならではの小中一貫教育を、平成29年4月より市内全小中学校において実施しています。

1 栃木市小中一貫教育のねらい

学校・家庭・地域が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間の一貫性のある教育により、未来を担う子どもたちに生きる力を育む。

2 基本的方針

中学校区を基本とした14のブロックを実施単位とし、6・3制を生かした小中一貫教育を以下の方針で実施しています。

- 中学校区としての**ブロックの特性**（学校施設、児童生徒、保護者、地域資源）を生かした**特色ある小中一貫教育**を推進します。
- とちぎ未来アシストネットを基盤とした、コミュニティ・スクール及び小中一貫教育の展開により、**地域とともにある学校づくり**を推進します。

3 取組の内容

① 組織的な小中一貫教育の推進

各校の校長、教頭、教務主任等により構成する**推進委員会**が中心となり、具体的な取組を検討・企画する**専門部会**を指導助言しながら、ブロック内全職員で取り組んでいます。

② ブロックごとに 目指す子ども像の設定

ブロック内の各学校の学校教育目標の下、児童生徒の実態や課題、保護者や地域からの意見を反映した**目指す子ども像**及び**重点目標**を設定しています。

目指す子ども像の実現に向けて、全職員及び保護者や地域との共通理解を図りながら、一貫性のある教育に取り組んでいます。



③ ブロックならではの特色ある教育課程の編成・実施

各ブロックの**重点目標**の達成に向けて、**義務教育9年間という連続性**のもとで捉えなおし、**計画的・系統的**な教育課程を編成しています。また、児童生徒の発達の段階を考慮して、**円滑な接続**になるよう、教育課程の工夫改善に取り組んでいます。



<指導内容と指導方法の系統性を重視した実践例>

ブロックの重点目標：**進んで学び、自分の考えを表現できる子どもの育成**

西方ブロックでは、平成28・29年度市指定の道徳教育研究校として、道徳教育で目指す子ども像や重点とする内容項目を3校で共有し、道徳の授業における「自分の本音を伝え合うための工夫」「よりよい生き方について深く考える工夫」を研究しました。

その成果を生かし、**授業の中で自分の考えを「書く」「伝える」「話し合う」「発表する」場を意図的に設定**することで、「自分の考えを表現できる子どもの育成」に取り組んでいます。

教員は、夏休み中の**合同研修会や各校の研究授業への相互参加**を通して、研修で学んだことを日々の授業実践に生かしています。



ブロックの重点目標：**多様な意見や情報をもとに主体的に考え、表現できる子どもの育成**

東陽ブロックでは、平成29年度より3年間、市指定学力向上推進研究校として、5つの小中学校が共通の重点目標の達成に向けて、授業改善に取り組んでいます。

合同研修会（年2回）や専門部会ごとの研修会で、各種学力調査結果の分析や各校での指導方法等について、5校の教員が一緒に話し合っています。**お互いの授業のよさや改善点等について小中学校の垣根を越えて協議**するとともに、**重点目標の達成に向けた日常の授業改善**に努めています。



<円滑な接続にするための実践例>

夏休みの部活動体験・母校訪問しての中学校紹介 ～児童生徒の交流・協働～

都賀ブロックでは、専門部会が立案・連絡調整し、夏休みに小学6年生が**中学校の部活動を体験**したり、1月に中学1年生が**自分の卒業した小学校を訪問**して、**中学校生活の紹介**をしたりするなど、児童生徒が交流する機会を設定しています。

子どもたちは、これらの活動を通して、6年生が中学生に親近感を感じて憧れを抱いたり、中学生が小学生とのかかわりから自分の成長を感じたりしています。

